



昭和 57 年当時の千葉ニュータウン中央駅建設予定地周辺

千葉ニュータウン／千葉県船橋市、印西市、白井市

千葉ニュータウンは、北総線「西白井」駅にししろいから「印旛日本医大」駅いんぼまでの6駅東西約18kmに跨る、計画面積約1,930haの広大な地区です。昭和44年5月、千葉県施行の新住宅市街地開発事業の認可を受け、昭和53年に宅地開発公団*が事業に参画。約45年間の事業期間を経て、平成26年3月に事業完了を迎えました。

東京都心や成田国際空港との近接性を生かしながら、「住む」「働く」「学ぶ」「憩う」など、各種機能の複合した総合的な都市づくりを進めるとともに、首都圏における宅地需要に適応した、良好で計画的な住宅用地、業務用地などの供給を図り、北総地域の中核都市を形成することを目的として整備が行われました。

*昭和50年に設立された、大都市周辺地域での住宅用宅地の供給を行う特殊法人。
昭和56年に日本住宅公団と統合し、住宅・都市整備公団（現UR）となった

タイムトリップ



「千葉ニュータウン中央」駅近接のビジネスモール



開放的なまちなみ



県立北総花の丘公園



東京電機大学の広々としたキャンパス



現在の千葉ニュータウン中央駅周辺（平成26年8月撮影）